

ノーラエンジニアリング

フェライト系ステンレス配管 能力倍増へ

高耐食性などで納入拡大



堀田社長

ステンレス配管大手のノーラエンジニアリング（本社・東京都千代田区、社長・堀田幸兵氏）は、戦略商品のフェライト系ステンレ

ス配管システム「NF S工法」の受注拡大に向け、2019年春をめどに能力倍増を検討している。製造子会社の東北ノーラ（福島県二本松市）で工場建屋増設とレイアウト改善、全自動パイプ切断機、ロボットアーム式プラズマ溶接機の導入を行い、同社の製造能

力を用約6千本に倍増する計画。「NF S工法」の17年度販売は前期比倍増の6億円の見通しで、中期的に10億円への拡大を見込む。NF S工法はSUS430LX鋼管と自社のCFジョイントを組み合わせ、プレート加工したフェライト系ステンレス配管システム

ム。建築物の耐震強化に伴う建築用配管の長寿命化ニーズや、現場施工の負荷軽減・安全向上を促進する軽量化ニーズに適する。

炭素鋼鋼管が主流の空調用、雨水・蒸気用配管などでステンレス化を狙っており、15年4月の納入開始以来、11月末現在で59件の納入実績がある。このうち17年度実績（8カ月）は23件。高耐食性を生かして約半分に薄肉化できるため、配管長さ当たりのコストは炭素鋼鋼管とほぼ同等。フェライト系ステンレス特有の低熱膨張性によ

り高温排水用、蒸気用配管にも適する。東北ノーラでは10月に電解研磨洗浄槽を新設し、ボトルネックだった大径配管の外面研磨の作業効率を大幅に向上した。現状は月約3千本のフル生産体制でオーステナイト系、フェライト系ステンレス配管をほぼ半々生産する。今後はフェライト系が大きく伸びる見通しで、能力増強を検討している。

オーステナイト系ステンレス配管の主力工場であるノーラエンジニアリング・愛知川工場では、18年度中に化学洗浄槽を新設する。